

新時代には柔軟に適応し、社会に貢献できる人材になるために。

教育の

I 社会に必要な“データやデジタル技術を使いこなす力” データサイエンス教育

● 文系理系を超えた基礎力 — それがDS力

現代社会には様々な情報があふれています。ビッグデータ、IoT (Internet of Things)、AI (人工知能) 等の先進的な技術が、これからの「Society5.0」と呼ばれる社会を支えていくことになります。

これから社会に出る皆さんは、これらの技術を使いこなすことで、自らの活動領域を広げていくことができます。

文系理系、学部や専門分野が異なっても、仕事や研究の進め方は共通するところがあります。富山大学では、**全学部において入学から卒業まで一貫性をもった数理・データサイエンス(DS)教育**を行い、社会に貢献できる人材を育成します。



● DS力 × 専門性 = 社会が求める人材

富山大学では、数理・データサイエンスに関する基礎力を培うために関連する授業科目を体系化した「**数理・データサイエンス・AI教育プログラム**」を令和2年度以降に入学する**全ての学部学生に提供**しています。1年次に全学部生必修の科目でパソコンの基本的な使い方や、数理・データサイエンスに関する基本を学びます。その後は、数理・データサイエンスに関する科目群の中から、興味・関心のある科目を選択履修し、知識の幅を広げることができます。

2年次以降は、各学部の専門教育の中で、それぞれの専門性を反映した科目が用意されています。関心があれば他学部が開講する科目も履修することができます。数理・データサイエンスに関する科目群の中から一定の単位数を修得した学生は、その証明として、プログラム修了証が授与されます。

II グローバルな世界で通用するコミュニケーション能力 英語教育

教養教育

- 習熟度別クラス分け (英語能力に応じたクラス)
- テーマ別クラス分け (興味・関心に応じたクラス)

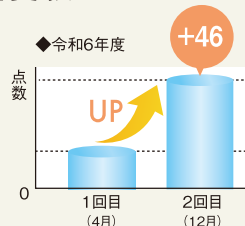
短期海外英語研修への参加機会があります

TOEIC-IPテスト (4月)

TOEIC-IPテスト (12月)

● TOEIC-IPテストを2回受験

1年次に2回 (4月と12月) と3年次に1回、大学による費用負担の下、TOEIC-IPテストの受験機会を設けています。令和6年度入学者では、4月と比較して、12月の平均点が46ポイント上昇しました。



● 教養教育終了後に短期海外英語研修

教養教育終了後の2～3月に、60名程度の学部1年次生を選抜し、海外の教育機関へ派遣する**短期海外英語研修に参加できます (費用の一部を大学が補助)**。ニュージーランドに12名、マレーシアに25名、台湾に23名の学生が、2025年2月から3月にかけて参加しました。



ニュージーランド研修

地域社会が抱える多様な問題や地域を越えたグローバルな課題に立ち向かうための

学部横断型教育プログラム

具体的な科目名については、**ウェブサイト及びシラバスを**ご覧ください。



▶ 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

本学の取組が先導的で独自の工夫・特色を有するものとして「**認定教育プログラム (リテラシーレベル) プラス**」に選定されました。北陸地区の国公立大学では本学が初めてとなります。

また、工学部・都市デザイン学部において実施しているカリキュラムが「**認定教育プログラム (応用基礎レベル)**」に認定されています。

北陸地区の国公立大学 **初**

リテラシーレベルプラス



有効期限: 令和8年3月31日

応用基礎レベル



有効期限: 工学部) 令和9年3月31日
都市デザイン学部) 令和10年3月31日

▶ ENGINE教育プログラム

富山大学・信州大学・金沢大学の合同プログラムです。

地域企業の方々と交えた他学部・他大学学生とのグループ学習 (ディスカッション)で地域課題への理解を深めながらコミュニケーション能力・課題解決の能力を養い、キャリア形成イベント、インターンシップを経て、新たな観光・生活産業を創出し**地域企業を率いていけるような能力を身に付ける**ことを目標とします。



▶ 地域課題解決型人材育成プログラム

地域への意識を高め、創造的な課題解決能力を身に付けます。

▶ SDGs教育プログラム

文系・理系の枠を超え、SDGsについて幅広く学び、SDGsへの理解を深めます。

富山大学は『大学の教育の目標』として、「高い使命感と創造力のある人材を育成する総合大学」を目指し、次のことを明記しています。

- 1 学生の主体的な学びを促し、多様な学修ニーズに応え、教育の質を保证するために、教育環境の充実と教育システムの改善を図り、教員の教授能力の不断の向上に努める。
- 2 教養教育と専門教育を充実し、グローバルな知識基盤社会に貢献できる、豊かな人間性と創造的問題解決能力を持つ人材を育成する。

三 本 柱

英語力向上のためのしくみと環境を整備しています。1年次の教養教育の英語に、TOEIC試験を前後で組み合わせ、e-ラーニングを導入し継続的な英語学習を可能としています。また、2年次以降は各学部の専門性に応じたプログラムを用意しています。

各学部での取り組み

各学部の専門性に応じたプログラム

TOEIC-IPテスト(3年次)
※医学科のみ4年次

就職活動や大学院
入試での活用

実社会での活用

いつでもどこでも 英語学習

各自の目的・レベルに合わせて英語学習ができるe-ラーニングシステム「ALC NetAcademy NEXT」を導入しています。いつでもどこでも無料で英語学習ができます。



留学支援

「交換留学オリエンテーション」「海外留学フェアin富山大学」のほか、留学相談にも随時対応。「TOEFL」の対策講座や「TOEFL団体向けテスト(TOEFL ITP)」を実施。
[参考] チャレンジしてみる?海外での学びと国際交流(リーフレット)



III

自ら考え、学び、課題解決に繋げる“姿勢”

アクティブ・ラーニング推進

富山大学では、「学生の主体的な学びを促す」ことを、全学における教育目標として明記しています。

教員による一方的な講義形式の教育と異なる、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法である「アクティブ・ラーニング」の推進を、全学的に進めています。グループワークやディスカッション、反転授業、PBL型授業等の手法も取り入れながら、学生が自ら考え課題を解決に導く能力の修得を目指しています。

アクティブ・ラーニング導入率 **80%**
(2024年度)



複雑で急激な変化をする現代社会への「対応力」を育む

教養教育

富山大学
Webシラバス



1 9学部の学生が共に学ぶ

1年次は全学生が五福キャンパスで学ぶため、異なる学部の学生が混成するクラスもあります。学部の壁を越えた交流機会を持つことで、幅広い視野を身に付けることができます。

2 令和8年度からの教養教育科目をリニューアル

今日の社会において、必要不可欠なスキルや能力をもつ人材を育成できるよう、導入学修を開講し、大学での学修の基礎を修得することができます。

知識を統合することを修得するための科目「統合科目」を開講し、統合知の学びを強化します。

